

不登校対応巡回教員による校内別室での関わりについて

不登校生徒の状況

不登校対応巡回教員が校内別室で関わっている不登校生徒は、中学校 1 年生進級時から登校が難しく、他の生徒が下校し、見られることが少ない放課後に登校できるという状態であった。今年度、校内別室を開室し、不登校対応巡回教員や支援員を配置して支援したことで、週 2、3 日別室に登校できるようになった。

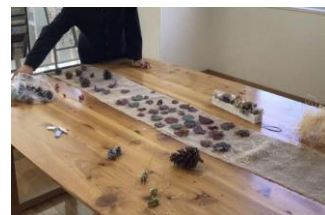
具体的な取組

○校内体制

週 1 回開催している支援会議に不登校対応巡回教員が参加し、不登校の児童・生徒の現状と支援策を確認するとともに、会議内容を全教職員に共有し、共通理解を図っている。また、学校全体で、未然防止の取組や不登校児童・生徒の支援について協力する体制を整備した。

○居場所づくり

児童・生徒が安心して登校し、過ごすことができるように教室と校内別室の環境整備をしている。また、校内別室では体験や活動を取り入れ、意欲を引き出す支援を行っている。



○絆づくり

小学校との交流等、異学年交流を取り入れた行事や活動を実施し、共感的な人間関係を育成している。

また、校内別室では、不登校対応巡回教員が生徒と会話をしたり、一緒に給食を食べたりするなど、積極的にコミュニケーションを図っている。

○校内別室での学習支援

一人 1 台端末を活用して、在籍学級と校内別室をつないだオンライン授業や、デジタル教材による個別学習を行っている。また、学級担任や教科担当教員と連携し、別室で取り組む課題を提供してもらい、支援員と一緒に取り組んでいる。

在籍学級の教室でも授業に参加できるよう、校内での協力体制を図っている。

成果

不登校傾向の生徒が活動内容を選択できるため、定期的に登校できるようになっている。また、学校全体の不登校出現率は、令和 6 年 11 月末現在で 5.33% と昨年度より 3.86 ポイント減少し、新規不登校生徒も減少している。

課題

昨年度から継続して不登校となっている生徒が複数いるため、不登校対応巡回教員を中心に校内別室の利用を促していく。

不登校対応巡回教員との連携と校内別室の活用について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生から不登校となり、以前から教育支援センターに週数日通室しており、途中から校内別室にも通うことができるようになった。現在は、教育支援センターと校内別室を利用しており、校内別室において他の生徒とコミュニケーションをとりながら前向きに学習や活動に取り組んでいる。

具体的な取組

○校内連携のための支援会議

校内別室指導支援員と「学校と家庭の連携事業」の支援員を活用し、毎日、校内別室対応ができる体制を整えている。

週 1 回の連絡会議での生徒情報の共有に加えて、学期に 1 回、「学校と家庭の連携事業」の推進会議に不登校対応巡回教員が参加し、生徒情報や支援策、他校での好事例等の共有を図っている。

○絆づくり

校内別室では、支援員や他の生徒と会話をしながら給食を楽しんだり、午後は小集団でのレクリエーションを行ったりして、人間関係づくりを行っている。

学校全体では、よいところを見付け伝え合う「グッドプロジェクト」や互いを尊重し合う「ふわふわ言葉週間」を設け、よりよい人間関係の構築を図っている。

○居場所づくり

不登校対応巡回教員から共有される他校の好事例を参考に、校内別室の環境整備を進めている。また、校内別室への登校の際のルールを決め、学習内容も相談しながら本人のペースで行っている。

学校全体でも、生徒との対話を大事にしながら、学級が居心地のよい場所になるよう工夫している。

○校内別室の配置の工夫

不登校生徒が安心して校内別室をどの時間に登校しても周囲を気にせず利用できるように、外から直接入ることができる位置に校内別室を設置している。



成果

校内別室では、利用中の 5 人中 3 人は校内別室に定期的に登校できるようになり、うち 1 人は在籍学級の教室の授業にも参加できた。

学校全体では、令和 6 年 11 月末現在で新規の不登校出現率が 1.55% で前年度から 5.62 ポイント減少し、未然防止の成果を上げることができた。

課題

昨年度不登校だった生徒が復帰したものの、継続して再び不登校となる場合があるため、引き続き、校内別室と学校全体での絆づくり、居場所づくりを強化していく。

不登校対応巡回教員との連携と校内別室での支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生になり、環境への不安から不登校になった。昨年度はほとんど登校することができていなかった。今年度から校内別室ができ、5 月頃から教員と本人で決めた時間に安定して登校できるようになってきている。

具体的な取組

○不登校対応巡回教員と連携した支援会議

不登校対応巡回教員が参加する支援会議を月 1 回開催し、不登校傾向が見られ始めた生徒の様子について、情報共有や支援策を検討している。支援策については、保護者、当該生徒に校内別室等の多様な選択肢を提示し、早期支援を行っている。

○多様な支援員の活用と連携

部活動指導員や地域未来塾の支援員を採用することで、これまでの学校での経験を生かした支援を行うことができています。また、不登校対応巡回教員が、他校での取組を共有することで、支援員が主体となって校内別室の環境整備を行っている。

○絆づくり

給食の時間に、在籍学級の生徒に校内別室まで給食を届けてもらったり、生徒本人が給食を取りにいたりし、在籍学級との関わりを大切にしている。

学校全体では、校長先生との全員面談を実施したり、各教員によるお悩み相談コーナーや雑談コーナーを開設したり、授業でも生徒同士での人間関係形成を目的にした授業を実施したりしている。

○居場所づくり

教室とは異なる動線で校内別室に安心して登校できるようにするとともに、教室とは異なる安心した雰囲気のある居場所になるように設置場所を工夫した。

また、支援員が主体的にポスターを作ったり、利用する生徒本人と相談しながら活動内容を考えたりしている。



成果

在籍学年・学級の行事に参加できるようになった生徒がいたことや、令和 6 年 11 月末時点での新規不登校出現率は 0 %（昨年度末より 1.31 ポイント減少）で、組織的な不登校支援や、校内別室の活用が成果を上げた。

課題

今後も、在籍学級と校内別室の連携や未然防止、早期支援に力を入れるとともに、昨年度から継続している不登校生徒への支援を強化していく。

不登校生徒の支援の充実について

不登校生徒の状況

対象生徒は、登校することが精神的な負担となり、小学校 4 年生の頃から欠席が増えた。欠席することで学習に対する不安が増し、教科の授業に入ることが一層難しくなった。フリースクールに通っていた時期もあったが、教員の働きかけにより徐々に登校の意欲が高まり、校内別室を定期的にご利用するようになった。

具体的な取組

○校内別室の活用

当該生徒が持参した教材や一人 1 台端末によるデジタル教材を活用した学習により、学習の遅れに対する不安の軽減を図った。また、支援員や他の生徒との関わりを通して社会性の向上を図った。支援内容については、不登校対応巡回教員と支援会議で共有を図った。



○行事や部活動への参加を支援

行事や部活動に参加したいという当該生徒の思いを尊重し、担任や顧問が声かけを行って支援した。

行事においては、事前・事後学習の予定を知らせたり、班のメンバー構成に配慮したりして、当該生徒が見通しをもって安心して参加できるように配慮した。

○S C との連携

定期的な S C との面談を実施することで、当該生徒に自己理解を深めさせるとともに、登校のペース等を自己決定する支援をした。また、S C から担任らへの助言を、当該生徒に対する支援に生かした。

○対象生徒とのつながりの継続

校内別室や S C との面談で登校した際には、担任や養護教諭から声かけを行い、当該生徒との信頼関係の構築を図った。

また、当該生徒の様子を保護者と情報共有し、学校と一体となって支援する体制を整えた。

成果

当該生徒は、校内別室に定期的に登校できるようになった。また、学級担任等の関わりにより、行事や部活動にも参加できた。学校全体の不登校出現率は、令和 6 年 11 月末現在で昨年度より 3.18 ポイント減少しており、新規不登校生徒も減少している。

課題

校内別室での支援、行事や部活動への参加、学級担任との関わりなど、様々な場面で居場所づくりと社会性の向上を図っていく。

不登校対応巡回教員を活用した校内別室指導について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から家庭環境等に課題があり不登校傾向であると引継ぎがあった。中学校入学後徐々に休みがちになり、6月から欠席が続いた。その後、支援員が家庭訪問を行い、中学校2年生になると、週1日、別室登校することができた。中学校3年生では登校できる日数が増え、現在は、学校か教育支援センターに毎日登校できるようになった。

具体的な取組

○校内体制

不登校対応巡回教員が参加している支援会議の内容を全教職員に周知し、校内における協力体制を構築している。

全教職員で不登校についての理解を深め、不登校生徒への適切な対応を行うため、外部専門家等を活用した校内研修の充実を図った。

○居場所づくり

校内別室利用の生徒が安心して登校し、過ごすことができるよう、校内別室の場所の工夫や環境整備を行った。



○絆づくり

生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが絆を感じ取り、紡いでいけるように、各教科等の活動で体験活動などの場と機会を取り入れている。

不登校生徒へのきめ細かな連絡を徹底することで、不登校生徒や保護者の信頼関係を深めていく。

○校内別室指導

学習支援の充実を図るため、一人1台端末を活用したオンライン授業や個別学習などの取組を行っている。

校内別室指導支援員と連携し、個に応じた支援の充実を図っている。また、不登校巡回対応教員が他校の取組を紹介することで、支援の充実を図っている。

成果

令和6年11月末時点の不登校出現率は5.63%と、昨年度より1.36ポイント減少し、新規の不登校生徒は1人のみである。また、どこにもつながっていない生徒も0人であり、上記取組が未然防止や早期支援につながっている。

課題

不登校の継続数が多いため、校内別室指導を通して、前年度から継続して不登校である生徒の支援を充実させる必要がある。